



高山西ロータリークラブ

No. 2345 例会 平成 26 年 4 月 4 日

雑誌・広報委員会

例会報告

第 2 6 3 0 地区 岐阜県 濃飛分区 創立 1 9 6 6 年 1 月 1 5 日

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
大垣共立銀行 高山支店 4 F
- 会長 山下 明
- 幹事 寺田 昌平
- 会報委員長 堀川 和士



大村 貴之

<会長の時間>

「桜(ソメイヨシノ)について」

～“桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿”

は間違いである～

・各地で桜が満開のニュース。当地はまだ蕾の状態のようですが、高山市内で最初に桜が咲く場所は陸橋の側の桜庵の桜です。今、満開です。以前、営林署の事務所の敷地だった時から陸橋の角に大きな桜の木があって、やはり高山で一番最初に咲いていました。桜庵になって切られてしまったのですが、若木に植え替えられても、日当たりが良いためか一番最初に咲きます。

ソメイヨシノはクローンです

・桜というと江戸時代まではヤマザクラ(吉野桜)でありましたが、明治の中頃からは桜の名所は圧倒的にソメイヨシノであり、今でも圧倒的に植えられています。

・ソメイヨシノは明治から130～150年間、種子から植えたことがただの一度もなく、すべて人の手で接木によって増やしているクローンなのです。そのため、地域で環境条件がそろると一気に花が咲き、一気に花を散らせるということで、開花予想も桜前線図なるものもできるのです。

ソメイヨシノの由来は

・江戸時代末期から明治初期に、江戸の染井村に自然なのか人工的なのかは定かでないが、偶発的にエドヒガンの桜とオオシマザクラの交配で生まれたというのが、調査・DNA検査などの研究によって確定されています。

ソメイヨシノは韓国が発祥と世界に発信し続ける妄想

・明治～大正にかけて起源について諸説があり、伊豆半島で自然交配によって生まれたとか、韓国の済州島(チェジュ島)の野生株との説があったが、現在は調査・研究で否定されています。

・しかし、韓国では毎年4月前後になると、主要メディアは「ソメイヨシノの起源は韓国だと世界に正しく知らせよう」というキャンペーンを海外に向けて広報活動を行っているのです。

・ソメイヨシノばかりか、様々な歴史認識において、日本はHistory、韓国はFantasy、中国はPropagandaと評論されていた記事を読みました。その通りでありまして、三国が同じテーブルについて歴史を検証し、摺り合せて一致点を見つけることは無理だということが何となく分るような気がします。

寿命が60年説

・ヤマザクラをはじめとする野生種の桜には200年～500年～1000年という老木があるが、ソメイヨシノは圧倒的に60年位で枯れることが多い。人間の手で作ったクローンであるため、病気に弱く虫に食われやすく、枯れ急ぐ脆弱な桜とされています。

・しかし弘前公園では樹齢100年以上の桜が300本以上、ひとつの芽に5～6個の花が付き、今でも春爛漫と花を咲かせています。

・それには理由があるのです。弘前は「お城とさくらとりんごのまち」で有名です。弘前の桜の樹の形がリンゴの木とそっくりな

のは、桜の管理をリンゴ栽培から学んだということ、一言で言うならば、桜切る馬鹿でなく、桜切らない馬鹿ということであり

ます。
・最初は、桜もリンゴも切らないという基本的に自然に任せることから出発するも、枯れてしまうという現象に気づき、失敗の連続から基本的に剪定方法を根本から変えてしまったのです。“枝のみならず幹から切る”としたことで、リンゴも桜も寿命を延ばしたばかりか、現在も生き生きとしているとのこと

です。ソメイヨシノは人間の手で作ったクローンなので、育てるには手入れが必要であり、自然まかせでは枯れてしまうのです

・弘前市では、弘前公園の桜の管理予算は年間4500万円であり、公園には3000本の桜があり、1本1万5千円という計算であり、1本の桜に1万円かけられないようなら桜を管理する資格がないということでもあります。

・いずれにしても、“桜切る馬鹿、梅切らない馬鹿”という格言はソメイヨシノに関しては間違っているということです。

<幹事報告>

◎高山市都市提携委員会より

・平成26年度高山市都市提携委員会会議の開催について(ご案内)

日時 4月30日(水)
午後13:30～

場所 高山市役所3階行政委員会室
議題 ・平成26年度事業報告及び収支決算報告について
・規約の改正について
・平成26年度事業計画(案)及び収支予算(案)について



◎飛騨高山国際協会より

・平成26年度飛騨高山国際協会通年総会の開催について(ご案内)

日時 4月30日(水) 午後14:00～15:00
場所 高山市役所4階中会議室

議題 ・平成25年度事業報告及び収支決算報告について
・平成26年度事業計画(案)及び収支予算(案)について

◎高山市教育委員会学校教育課長より

・「高山市のキャリア教育を考える会」今後の活動について

◎高山市長、飛騨高山国際協会長、飛騨高山国際観光協議会長より

・第2回中国文化観光イブ in 高山について(ご案内)

日時・場所 4月20日(日)
中国伝統芸術披露 13:00～15:30 飛騨・世界生活文化センター
歓迎交流会 17:30～19:30 ひだホテルプラザ

◎一般社団法人岐阜県視聴覚障害者協会より

・「第41回耳の日フェスティバル」御礼

<受贈誌>

R I 日本事務局(財団室NEWS2014年4月号)、不破RC(会報)、不破の関RC(会報)、(株)オクトン(ロータリー用品カタログ)、(株)和光(ロータリー用品カタログ)

ロータリーを实践しみんなに豊かな人生を

例会報告

＜出席報告＞

区分	出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
前々回	休会	のため	補正	ありま	せん
本日	42名	—	42名	50名	84.00%

＜本日のプログラム＞ お祝い

◎会員誕生日



寺田 昌平	4. 6
内田 幸洋	4. 17
斎藤 章	4. 30
下屋 勝比古	4. 13

◎夫人誕生日

新田 敬義	悦子 さん	4. 12
斎藤 章	厚子 さん	4. 5
蜘蛛 康介	百合香 さん	4. 27
向井 公規	祐子 さん	4. 22
東 庄豪	ひろみ さん	4. 26

◎結婚記念日

挟土 貞吉	S42. 4. 7
菱川 正臣	S42. 4. 24
脇本 敏雄	S46. 4. 10
田中 晶洋	H 6. 4. 16
井上 正	H10. 4. 21

◎出席表彰

挟土 貞吉	29年
山下 明	3年



◎在籍周年記念表彰

なし

◎3ヶ月表彰

・内田 幸洋	・岡田 賛三	・小田 博司	・斎藤 章
・阪下 六代	・田近 毅	・新田 敬義	・中島 弘人
・挟土 貞吉	・菱川 正臣	・門前庄次郎	・山下 明

雑誌広報委員会

委員長 遠藤 隆浩

本日は株式会社高山市民時報社 取締役会長の小鳥幸男様に卓話をお願いしております。



小鳥様は昭和6年

(1931年)大垣市にお生まれになり、高山市の小鳥家の養子とされました。高山市職員退職後、(有)乗鞍ハイランド代表取締役社長、(株)高山市民時報社代表取締役社長、同社会長、高山商工会議所副会頭(三期)、(社)高山市文化協会会長(七期)を歴任され、また、俳誌「飛騨」の代表でいらっしゃいます。

著書は『飛騨百景』『余生余滴』『伝承空間飛騨高山』『鶏頭楽』等多数。また『雪』『トロイの城』『死語と寝』『天骨』『夕薄暑』『春星』といった句集も出され、『春星』では第6回文学の森賞を受賞されています。

どうぞ宜しくお願い致します。



(株)高山市民時報 取締役会長 小鳥 幸男 様

皆さん今日は、只今ご紹介いただきました株式会社 高山市民時報社の取締役会長の小鳥幸男でございます。先日娘であります高山市民時報社社長より、高山西ロータリークラブの遠藤さんから「市民時報について卓話をせよとの依頼があったがどうしたものか」と相談がございました。実は遠藤さんのお父さんの弘典さんには、私が文化協会会長をして居りました頃、法人化する為の基金造りに何度か無理なご協力をいただいておりました、その節の御恩に何等かの形で御報いしなければと常々考えておりました。「これは一概に無碍にお断りする訳に行かない」と感じましたが、私は十一年前に脳梗塞に倒れまして、左半身に障害が残り、加えて言語障害となりました。そのせいで、お聞きの通り発音ははっきりしませんので、皆様には大変お聞き苦しいと存じますがどうぞお許しいただきたいと思っております。

言い訳ついでにもう一つ付け加えますと、二十数年前、歯の治療にインプラントでやりました。その頃インプラントを高山で施術したのは、おそらく高山で一番か二番目に早かったと思います。その証拠に、私のかかりました歯科医院では、その年のその医院で「今年一年で一番痛い目に合わせて、一番金を使

奉仕を通じて平和を

例会報告

わせた患者」として忘年会に萬代へ招待して貰いました。インプラントは、とても快適で、自分の歯と何等違和感を感じずこの二十数年間過ぎて参りました。ところが、ここへ来て、さすがのインプラントもガタが来まして、昨年土台から取り外し、入れ歯となりました。入れ歯をしてみて初めて分かった事は、食事をするにも、歯を磨くにも、会話をするにも、とても都合が悪いことです。インプラントがいかに優れていたのかを初めて知りました。

昔は、どちらかという人前で喋る事は得意の方で、ノー原稿で二時間でも三時間でも喋れ、一年間に五十回くらい講演をやった年もありました。脳卒中で倒れてからは、次の言葉が出てこなくなり、ごらんの通り、あわれな姿をさらしていますが、文章を書くことの方は、少しも困らず、多少の文字の忘れは辞書を引きながら、毎週金曜日市民時報の下のところ「鶏頭楽」というコーナーを私一人で書いていまして今年で二十年になり、回数としては千回を超えます。

さて言い訳の前置きが長くなりましたがロータリークラブの広報委員会のご指名でございますから、高山市民時報について話をせよとの事だと思います。

高山市民時報の創刊は、終戦間もない今から六十六年前の昭和二十三年三月一日でございます。お手元に創刊号と二号のコピーをいれておきましたので、これを種にしながらお話をすすめて参ります。

皆さんどなたもお若いので、信じられないと思いますが、何しろ物資が無く、現代の北朝鮮のニュースそのままが日本人の生活でした。米はもちろん、食糧に限らずほとんどの物資が配給でした。

現在観光客でにぎわっている陣屋前朝市広場には闇市のバラックが建ち、闇市へ行けば何でも欲しい物が買えましたが、ものすごいインフレで、闇で古着を買って二軒隣へ歩いていく間に二倍に値段が上がっていると言う時代でした。

市民時報は最初、真木潔さんが始められました。真木さんは、神戸で毎日新聞の記者をしていて、体をこわし、養生のため、故郷の高山へ帰って来ました。

真木さんは新聞記者という職業柄、博識でその頃「歩く百科事典」と呼ばれるほどでしたが、現代では、スマホや電子辞書が有り、毎日コマースしているジャパネットタカタで簡単に買えますので「歩く百科事典」のたとは通用なくなりました。

市民時報は最初月六回発行で、一枚ペラの裏表のみでしたが、ご覧の通り何の配給が有る。幾らだといった人間が生きて行く上に一番大切な情報をただ羅列した新聞で、こんな内容の新聞は、おそらく日本で市民時報だけだろうと思います。

この頃、朝日新聞や中日新聞や日刊新聞のほとんどが載せるようになりましておくやみ欄は、実は、市民時報が五十五年前の昭和三十四年に日本で最初に始めました。おくやみ欄は、高山のような閉鎖的的社会の中で義理を欠かさぬように生きて行く

上で欠くことの出来ない極めて重要な情報で、市民時報が配られて来るとまず、おくやみ欄を見ると言う人が多くあり、新聞を作っている者にとって有難いやら、情けないやら極めて複雑な気持ちで居ます。

私は、元々高山市役所に勤めておりまして主に財政や企画の仕事をしておりましたが、観光課長時代、その頃の市長も頭が上がりたと言う大ボスがおられまして、その人と意見が合わず、大衝突して退職しました。

退職後、市民時報の真木さんが「小鳥君、俺ら大分年をとったので君が受けてくれんか」と言われ、文章を書く事は得意で市役所の情報のつぼどこを知っており、色々考えた末「市民時報の価値を評価して、金銭で譲って貰う」という条件で引き受けました。これをやっておかないと私は、生涯、真木さんに頭が上がらない事になるのを恐れました。

先程申しましたように市民時報をお引き受けしまして三十年になりますが、不幸にして病におかされ、年も八十歳を超えるようになり、次女の文乃に社長を譲り、お陰様で順調に発行を続けております。

高山市民時報という新聞は、発行部数が多いだけに高山市民の大多数が読者であり、即お客様です。それだけに極めて細かいところに気を使い、不偏不党をモットーに紙面作りをすすめております。

さて、この機会に私の趣味を申し上げます。それは俳句です。十五歳の時から始めた俳句は、一度も途切れる事なく続けています。句集も第六集を出しました。齢八十三を重ね飛驒人の手による飛驒の俳句作りをすすめたと思い、お手元にお配りしました「飛驒」という俳誌の代表を努めております。その「飛驒」がこの度二百号を数えることになりました。お手元にお配りしました図録は記念行事として行った俳聖芭蕉展のものです。こんな積み重ねは、私がこの飛驒高山という土地で生きさせて頂き、残り少ない人生の最後の恩返しだと心がけています。

大変長々とまとまりのないお話を致しましたが貴重なお時間を有り難うございました。

(株) 高山市民時報社 社長 小鳥 文乃 様

本日は、会長の話を聞いていただき、ありがとうございます。

当社は、「飛驒高山で一番読まれている新聞」

を目指しています。地元に着した内容、公正で高山市の出来事がいち早くわかる新聞、そして飛驒の人々を一人でも多く紙面に登場させることが大切な使命であると考え実践しております。

全国でもこのような形で市民に密着している新聞は珍しく、



例会報告

地元紙として長年やってこられたことは、大変誇りに思っています。歴史を守りながらも時代の流れに沿って一層の発展を目指して全社を挙げて努力しています。また、紙面構成や高山市の新年度予算などをクローズアップし、市民が普段あまりよく理解していないものの解説などにも懸命に努力しています。6月ころには、子供からお年寄りまで家族みんな楽しんでいただける歴史に関する連載も予定しています。

(当紙の3つ自慢)

その1は、日本一紙面の小さい新聞

その2は、普及率の高さ

その3は、購読料金は648円という日本一綴代の安い新聞です。

まだ当新聞をお読みでない方、または、お知り合いの方で読んでみえない方などみえましたら是非これを機会にお申し込み下さい。申し込みはがきを入れてありますので、よろしくお願ひします。また、当社の業務として、1500円から使える紙面広告の他、「クロノス」という折込チラシの発行もやっております。クロノスは、全国的にもめずらしく、1枚しか挿まない折込チラシとしてクライアントにも読者にも効率的と多くの皆様に御利用いただいております。

その他書籍出版の業務も致しております、大勢の皆さんの出版のお手伝いもしております。

どうぞ皆さん当紙を可愛がっていただき、色々な情報をお寄せいただいたり、意見もお聞かせください。

<ニコニコボックス>

●山下 明さん

高山市民時報社 取締役会長 小鳥 幸男 様、ご多忙の中ご来訪いただきありがとうございます。卓話よろしくお願ひします。また小鳥文乃様にもお越しいただきありがとうございます。

●寺田 昌平さん

本日のプログラムは雑誌広報委員会です。高山市民時報社 会長 小鳥 幸男 様、社長 小鳥 文乃 様ご来訪歓迎します。本日のスピーチ楽しみにしています。ありがとうございます。

●遠藤 隆浩さん

小鳥 幸男 様、文乃 様のご来訪を歓迎いたします。無理を言って引き受けて頂き本当にありがとうございます。独特のユーモアの効いたスピーチ期待しています。

●小森 丈一さん

小鳥 幸男 様のご来訪を歓迎申し上げます。先般全文解読されました「位山集」の出版、大変嬉しく思います。企画をされた方、解読されましたスタッフの皆様のご努力に心より敬意を表します。

●菱川 正臣さん

私の母と従姉妹の小鳥 幸男 さんを歓迎いたします。またスピーチ楽しみにしています。

●山本 善一郎さん、伊藤 松寿さん、田近 毅さん、脇本 敏雄さん、古橋 直彦さん、小田 博司さん、向井 公規さん

小鳥 幸男 様、ようこそ西RCへお越しいただきました。また市民時報社 社長 小鳥 文乃 様お忙しい中ありがとうございます。本日はよろしくお願ひ致します。

●垂井 政機さん

本日は弊社のお弁当を御用命いただきましてありがとうございます。今日は毎年4月14日15日に販売させていただいております「幻の駅弁 春のまつり弁当」でございます。当日は赤飯ですが今回は白ご飯にいたしました。かぶせ蓋の前面縁には各屋台組のまつり提灯、向こう側には秋祭りの提灯をデザインいたしました。さらにもっとこんな献立があるよ、とか、こんな料理を加えたら、とかご教示いただければ幸いです。



●野戸 守さん

孫の雑用で早退します。

